

第2回ナガセケンコー杯
第52回日本少年野球連盟春季全国大会静岡県支部予選



期間 令和3年11月27日(土)28日(日)12月4日(土)12月5日(日)

会場 アルカディア球場/浜北球場/浜松球場/草薙球場

主催 (公財)日本少年野球連盟 静岡県支部
(公財)日本少年野球連盟

協賛 ナガセケンコー株式会社



⚠️ ボーイズリーグは一切の暴力、暴言を禁止しています。

第52回日本少年野球連盟春季全国大会静岡県支部予選

月	日	曜日	確保球場	開門	第1試合	第2試合	第3試合	第4試合	責任審判員	担当チーム
11	27	土	草薙球場	8:30	A2	A4				
11	27	土	アルカディア球場	8:30	A1	A3				
11	27	土	浜北球場	8:30	A5	A6				
11	28	日	草薙球場	8:30	B3	B4				
11	28	日	アルカディア球場	8:30	B1	B2				
12	4	土	浜松球場	8:30	準決1	準決2				
12	5	日	草薙球場	8:30	決勝					

グラウンド担当 大会3日目以降の担当チームは、勝ち上がりチームにて行います。

優勝…第52回春季全国大会出場

順延時

都度支部にて決定後、該当チームの代表へ連絡します。

* 中止決定は、当日6:00に担当チームが判断し、該当チームの代表及び支部長、事務局長、審判委員長、事業部長へ連絡してください。

大会特別
大会規定

抽選時、支部秋季大会優勝(島田)・準優勝(浜松)を別ブロックとし、先行抽選します。

2021年公認野球規則、ならびに(公財)日本少年野球連盟特別ルールを厳守します。

(公財)日本野球連盟が定める「中学生投手の投球制限に関する統一ガイドライン」を厳守します。

※支部大会においては、4回にインターバルを5分取り、その5分は、試合時間に含まれない事とする

大会参加費

大会参加費7,500円+特別負担金7,500円 合計¥15,000円を支部会計へ振込んでください。

※尚、抽選後棄権の場合は、返金しません。

* 各チームはトスを行う時、試合球2球を主審へ提出する。(不足時は両チームから1球ずつ提供)

審判費用

* 各球場責任者は、責任審判より表を受理し、該当額を支払ってください。

審判要請

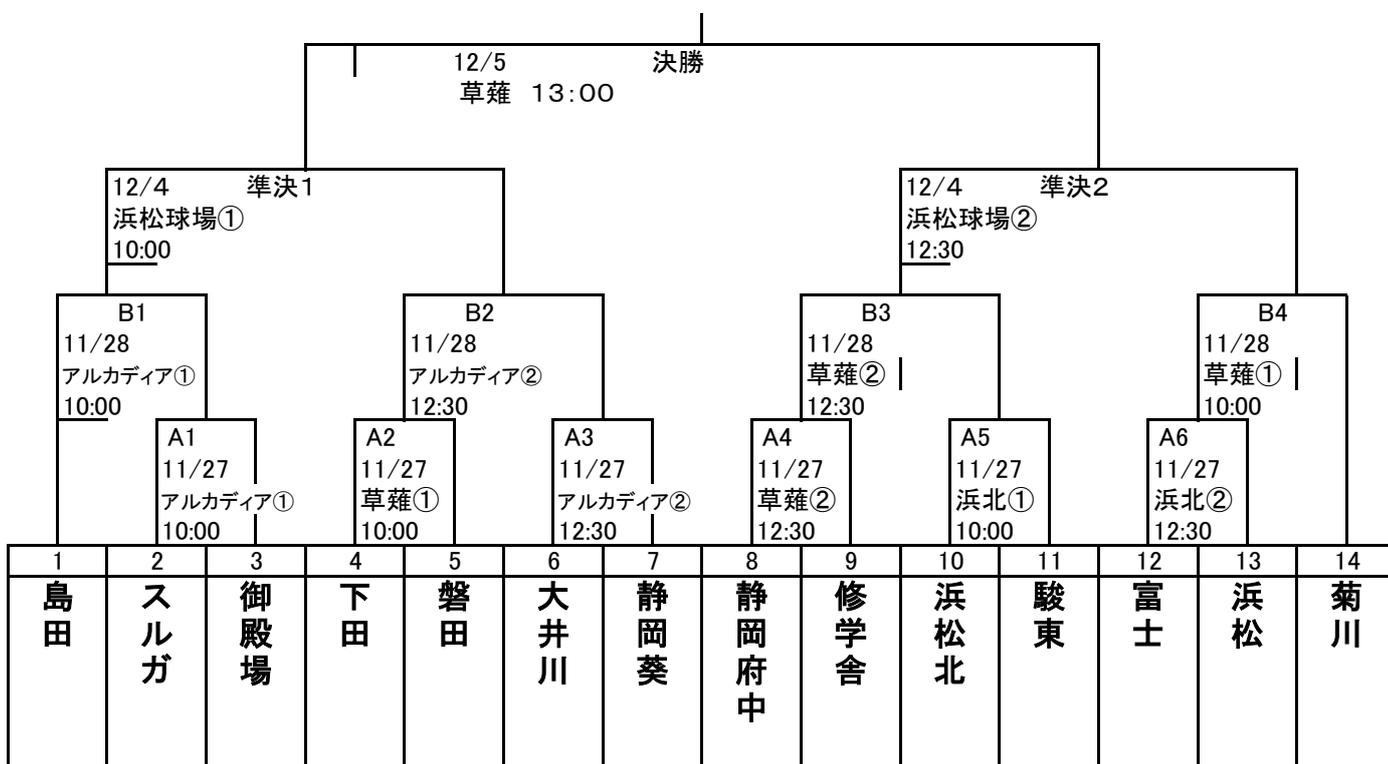
当日試合チームの父兄審判1名は、第一試合開始の1時間前に各球場審判部へ集合してください。原則的に、球審と二塁塁審は、全試合該当球場地域の常任審判員(BL2)で行います。

結果報告

担当チームは、試合結果を事務局長(富士:瀧澤代表)と事業部長(菊川:池田代表)に連絡し、事業部長が1日分を全チームへメール連絡します。

* 詳細結果用紙は、瀧澤広報部長へ写真メールしてください。

* 詳細結果用紙は、瀧澤広報部長へ写真メールしてください。



<新型コロナウイルス感染防止対策について>

本大会は、連盟 7 月 12 日付通達の「新型コロナウイルス感染防止対策新ガイドライン」に基本に大会運営を行います。

大会参加時の提出書類：「新型コロナウイルス感染症対策大会当日参加名簿」を球場責任者に提出して下さい。

<主催大会、地区大会の注意事項 >

(1)大会開会式、閉会式について →本大会は開会式、閉会式は行いません。

①開催会場の了承を得て会場の規則と以下の事項を遵守したうえで開催を認める

②マスク着用の上、横 1m 以上の間隔をあけること

③主催者のあいさつ等は距離をとりマスク不要

④式はできる限り簡素化し、短時間での式運営に努めること

(2)大会運営について

①室内本部はマスク着用、必要最低限の者で運営を行う。換気を行ない、密を避ける。

②球場責任者は、各担当者を配置して、チーム代表に観客等含めて密にならないよう指導し、消毒液・手洗い用、ハンドソープ等を設置すること(本部席、ベンチ、トイレ等)

③各チームは試合開始 1 時間前に大会本部に到着すること。

早く到着した場合は、大会本部・球場付近には集合せず、離れた場所で選手、保護者等に密を避け待機

④各チームは、チーム責任者が登録役員・選手名簿、オーダー表、「新型コロナウイルス感染症対策当日参加名簿」を本部受付に提出する

⑤チーム到着時、帰途時の挨拶はしない

⑥試合前審査は審査証確認及び道具審査のみとし、代表のみが立ち会う

⑦球場入場前に大会本部役員はチーム全員に検温、アルコール消毒を実施する

⑧試合開始に際し、両軍は前 2m 以上の距離をとり集合し、球場責任者がホームベース前で審判員・指導者・選手等に「基本事項」1-(2)を確認。脱帽して声を出さずに礼をもって挨拶とする。

⑨試合中は、チーム責任者は「基本事項」1-(2)をチーム内で徹底させること(観戦保護者等含む)

⑩試合終了後は密を避けるために速やかに会場から解散する

⑪接待・運営は密を避けて行うこと。1-(3)「昼食等飲食時の注意」を遵守する。飲料等については、配膳する前に手洗い・消毒。感染防止に配慮した使い捨て容

奨める。使い捨て以外の食器等は合成洗剤で必ず洗浄すること

⑫その他細目については、大会主催者が本ガイドラインの趣旨に基づき大会運営細目等を別途定めて大会を運営する

< 1^ウ (2)、(3) の抜粋 >

(2) マスク着用の義務

① 人との距離横 1m、前方 2m の距離が取れない場合(基本距離)マスク着用

② 指導者、審判、保護者等の大人は、上記①に限らず大会、試合、練習含めマスク着用を基本とする

③ 屋内での活動は原則マスク着用。ただし、選手のみ練習・トレーニングする際にはマスクは不要

④ 大会・試合中は控え選手はマスク着用 なお、熱中症予防のため基本距離を置いて会話せずにマスクを外す習慣をつけること 選手はグラウンド内の練習・試合等においては上記①の基本距離、程度の間隔を十分にとるように配慮すれば、練習中、原則選手はマスク不要とする

(3) 昼食等飲食時の注意 飲食する場合は、以下を遵守すること

① 食事前等に手洗い、手指消毒すること

② 前 2m、横 1m の距離をとる

③ 黙食とする

④ 保護者等が配膳する場合は、選手・保護者はマスク着用

大会規定

- 1・チームの登録選手は中学生の部は 11 名以上 25 名以内（ベンチ入りは 20 名以内）とする。また、小学生の部は 11 名以上 20 名以内とする。
- 2・出場選手はその大会の登録締め切り日現在、連盟へ登録済みの者に限る。
- 3・審査証は当年度発行のものとする。
- 4・オーダー表記入選手 20 名以内およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、マネージャーのみベンチに入ることができる。但し各種登録証(チーム責任者、監督、コーチ)および審査証(選手)を携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチには入れないが、チーム責任者、監督、コーチは、試合開始までに間にあった場合は、審査の上ベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間にあった場合は、審査の上、その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合できない。
- 5・組み合わせの若番号が 1 塁側のベンチ、後番号が 3 塁側のベンチに入る。但し、チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。
- 6・監督(背番号 60)、コーチ(背番号 50)は選手と同じユニフォームを着用すること。
- 7・試合開始時刻 60 分前までに試合場に到着し、直ちにオーダー表を 5 部、投球回数記録副表 3 部及び大会初戦の時は、直前大会参加報告書を大会本部に提出のうえ所定の審査を受けなければならない。
- 8・オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
- 9・試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議して没収試合を宣言することができる。
- 10・試合方法など
 - ・中学生の部
 - (1)各試合は 7 回戦で行い、4 回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から 2 時間（決勝戦は 2 時間 20 分）を超えた場合、新しいイニングには入らない（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則 7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデットゲームとする。
 - (2)4 回終了時（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4 回終了時）10 点差、5 回以降 7 点差の場合、コールドゲームとする。
 - (3)7 回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長 8 回(決勝戦は 10 回)あるいは試合開始から 2 時間(決勝戦は 2 時間 20 分)を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレイク方式を実施する。
(競技に関する特別規則「タイブレイク実施細則」参照)

(2)4 回以降 7 点差の場合、コールドゲームとする。

(3)6 回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長 7 回 (決勝戦は 9 回) あるいは試合開始から 1 時間 40 分 (決勝戦は 2 時間) を超えては(どちらか早い方) 新しいイニングに入らず、タイブレーク方法を実施する。

(競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照)

11・(1) 中学生の部投手の投球数は、1 日最大 80 球以内とし、連続 2 日間で 120 球以内とする。

小学生の部投手の投球数は、1 日最大 65 球以内とし、連続 2 日間で 105 球以内とする。

(2) 打席の途中で制限数に到達した場合は、当該打者の打席が終了するまでは投球を認める。その時制限数を超えた投球数はカウントしない。

(3) ボークは投球数としない。ノーゲームになった試合も投球数にカウントする。申告敬遠までの当該打者への投球数はカウントする。その他、本大会は中日本ブロック HP 掲載の投球数制限ガイドラインに基づき行う。

(4) 日程の変更 (地区大会を含む) 等で前大会と連続試合になる場合があるので、すべてのチームは「直前大会参加状況報告書」次大会の最初の試合日に、次大会主催者宛に提出しなければならない。

12・(1) 監督またはコーチの指示、伝達は 1 試合で攻撃 2 回と守備 2 回の計 4 回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれで 1 回の指示、伝達を認める。

(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない。)

(2) 守備側の投手に対する指示、伝達が 3 回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。

(3) 内野手が 2 人以上投手のところに行った時も 1 回に数える。

(4) 指示、伝達は審判がタイムを宣言してから「30 秒以内」とする。

13・1 イニングで同一の投手に対して指示、伝達が 2 回目となれば、自動的に投手の交代となる。

その投手は他の守備位置に着くことができるが、同一イニングでは投手として登板することはできない。

ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。

14・審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。

15・監督またはコーチが投手に指示などをするとき、マウンドのところで行うこと。(ベンチからは駆け足で)

16・2 塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。

17・ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。

18・投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。

19・小学生の部は、攻撃側チームの監督、コーチに限りコーチスボックス内でベースコーチを務めてもよい。この場合必ず両耳付きヘルメットを着用すること。

20・各チームは同色のヘルメット 7 個以上、捕手の規定防具 (マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ) 2 組を備えること。一体型捕手マスクの場合はヘルメット、スロートガードを除く。

21・ユニフォーム、バット、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。

22・捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。

23・グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。

24・ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。

25・光化学スモッグ発生の場合は、試合及び選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。

26・試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案してシートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。

27・守備側のチームの監督は球審に敬遠の意思を伝えると投手が投球することなく対戦打者を四球にすることができる（申告敬遠）。

参考

野球規則 7.01(4)

7.02(a)によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは、球審が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。

【注】我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

(1) ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

(2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち又は表の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点かたはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

《タイプブレイク実施細則》

(1) 特別規則

(イ) 中学生の部は延長8回あるいは試合開始から2時間を超えて（いずれか早い方）決勝戦は10回あるいは2時間20分を超えて（いずれか早い方）、決勝戦は9回あるいは2時間00分を超えて（いずれか早い方）両チームの得点が等しい時は以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。

(ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打者の者とする。

(ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打者が二塁走者、そして二塁走者の前の打者の者が三塁走者となる。

(ニ) この場合の代打および代走は認められる

(2) チームおよび個人の記録

チームおよび個人の記録は公式記録とするが、如何に掲げる事項に留意すること。

(イ) 投手記録

- ・規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。
- ・完全試合は認めない。
- ・無安打・無得点試合は認める。

(ロ) 打撃成績

・規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。

- ・規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などはすべて記録とする。

【AED所持の確認】

- ・選手審査時にチームはAEDを所持していることを確認すること

投手投球数制限の運用細則

令和3年5月8日
(公財)日本少年野球連盟

1. 投球数の定義

試合中に投手が捕手に向かって投げた球とする。

以下の場合、球数としてカウントしない。

①牽制球

②ボーク

※ただし走者なしの場合のボークで投球動作中にボールが手から飛び出し、ファウルラインを超えて「ボール」と宣告された投球数はカウントする。

③当該打者へ申告敬遠を行ってからの投球数

※雨などでノーゲームになった試合は投球数にカウントする。

2. 投球数の管理

①球場責任者は、スコアラー1名、投球数管理責任者と投球数管理者の2名を配置する。

②投球数管理責任者は別紙「投球数集計表」により記録する。

③もう一人の管理者は、カウンター、得点版(代用)等の器具を用いて投球数を計測する。

④イニング終了時に投球数管理責任者、管理者とスコアラーにより投球数を一致させる。

⑤投球数が一致しない場合は、3人のうち多い方を投球数と決定、3者が一致しない場合は投球数管理責任者の投球数を記録する。

⑥確定した投球数を次のイニング開始前にアナウンサーが球場にアナウンスする。

⑦投球数はイニング毎の投球数及びその投手の総数の投球数をアナウンスする。

(例「この回の得点は〇点、投球数は〇球です。なお、△□投手の総投球数は〇球です。」)

⑧各チームはアナウンスされた投球数と違うと判断した場合は、監督がタイムをかけて球場責任者及び投球数管理責任者と協議して投球数を決定する。

3. 運用・管理方法について

①当日の試合終了後、勝ち上がりチームは、「投手投球数記録表」(副3枚複写)を作成し球場責任者に提出すること。なお、当面は「投手投球回数記録表」(副)を代用して差し支えない。

②球場責任者は提出された「投球数記録表」(副)を上記2の投球数管理のもとに間違いがないかを確認し、「投手投球数記録表」(正)を作成、署名交付する。

③球場責任者又は勝ち上がりチームが責任を持って翌日以降の大会の球場責任者に対して、「投手投球数記録表」(正)及び(副3枚複写)を引き継ぐこと。

④翌日以降の球場責任者も①～③の手順に沿って投球数管理を行い最終的に大会本部に引き継ぐ。

日本少年野球連盟 静岡県支部長杯大会役員名簿

《大会会長》		《大会顧問》	
静岡県支部支部長	矢田 正行	日本少年野球連盟会長	惣田敏和
《大会運営委員長》		日本少年野球連盟副会長	堀内健
静岡県支部企画運営部 部長	鈴木 貴司	日本少年野球連盟副会長	工藤眞一
《大会運営副委員長》		日本少年野球連盟	松本行弘
静岡県支部副支部長	瀧澤 広行	中日本ブロック長	
静岡県支部総務部 副部長	宮本 博之	日本少年野球連盟理事待遇	
静岡県支部企画運営部行 委員長	池田 竜司	静岡県支部担当	杉浦 真一
《大会運営委員》		《大会総務部長》	
山田 登 (島田ボーイズ代表)		静岡県支部総務部長	瀧澤 広行
山本 浩士 (浜松ボーイズ代表)		《大会事務局長》	
靱山 浩 (スルガボーイズ代表)		静岡県支部事務局長	瀧澤 広行
中村 好寛 (磐田ボーイズ代表)		《大会副事務局長》	
芦澤 厚史 (静岡葵ボーイズ代表)		静岡県支部事務局	進士 佳典
瀧澤 佳孝 (富士ボーイズ代表)		静岡県支部事務局	芹澤 輝充
熊切 大介 (静岡府中ボーイズ)		《大会広報委員長》	
富樫 憲之 (浜松北ボーイズ代表)		静岡県支部広報委員長	瀧澤 佳孝
森重 明 (大井川ボーイズ代表)		《大会会計部長》	
芹澤 輝充 (御殿場ボーイズ代表)		静岡県支部会計部 部長	大木 実
大木 実 (浜松修学舎ボーイズ代表)		《大会会計副部長》	
宮本 浩和 (下田ボーイズ代表)		静岡県支部会計部副 部長	宮本 浩和
進士 佳典 (菊川ボーイズ副代表)		《大会会計監査》	
		静岡県支部賛助金制度部	森重 明
		《大会審査指導部長》	
		静岡県支部審査指導部	瀧澤 広行
		《大会審判長》	
		静岡県支部企画運営部審判員会	高林 俊光
		《大会副審判長》	
		静岡県支部企画運営部審判委員:	北島 博幸
		《大会副審判員》	支部審判員諸氏

磐田ボーイズ

代表	中村 好寛
監督	鈴木 克昌
コーチ	齋藤 隆太
マネージャー	大石 英明
3	主将 山本 真永 2年
2	渥美 綜亮 2年
7	大石 昱翔 2年
8	中村 由活 2年
9	植田 万里 2年
10	立花 将太 2年
11	鈴木 陽翔 2年
13	佐藤 康晴 2年
14	市川 太陽 1年
15	中山 直央翔 2年
21	久保 敦 2年
23	村上 雅治 2年
24	坂下 聖 1年
29	鈴木 泰介 1年
32	須田 湮斗 1年
33	浅田 陽天 1年
39	中山 嵩也 1年
41	大橋 一央 2年
51	木俣 都和 2年
66	佐藤 大加良 2年

下田ボーイズ

代表	宮本 浩和
監督	渡邊 夏樹
コーチ	小林 大真
マネージャー	鈴野 美穂子
6	主将 山本 雅人 2年
1	佐野 恭太郎 2年
2	近藤 央脩 2年
3	石坂 天 2年
4	石田 陽輝 2年
5	磯谷 怜皇 2年
7	鈴野 佑月 2年
8	小川 優人 1年
9	山本 璃音 2年
10	土屋 洸慈 2年
11	大年 洸也 1年
12	笹本 歩夢 1年
13	高橋 舵真 1年
14	伊藤 希 1年

大井川ボーイズ

代表	森重 明
監督	江塚 諭
コーチ	海老岡 晃亘
マネージャー	芳村 貞治
6	主将 田中 識寛 2年
0	吉田 勘汰 1年
1	芳村 遥斗 2年
2	大澤 隆輝 2年
3	畠山 聡太郎 1年
4	築地 光希留 2年
5	川瀬 允護 2年
7	宮崎 恭輔 2年
8	石橋 弘輝 1年
9	鈴木 琉生 1年
10	萩原 龍 2年
11	古川 奈尚 1年
15	長野 滉史 2年
16	三橋 智成 1年
17	内田 智也 2年
18	杉田 慶太郎 2年
22	曾根 蒼威 1年
23	袴田 皓大 1年
25	西川 将正 2年
99	瀧野 七海 1年

島田ボーイズ

代表	山田 登
監督	鈴木 亨
コーチ	飛弾野 清治
マネージャー	奥津 和長
16	主将 増田 煌太郎 2年
2	杉田 迅 1年
6	山本 琉聖 1年
8	藤浪 ムサシ 1年
14	杉山 健斗 2年
15	大川 皓己 1年
17	鈴木 航 1年
19	成岡 翔太郎 2年
20	石川 鳳介 2年
24	古木 竜造 2年
26	中村 慎 2年
29	増田 駿 1年
31	栗田 怜旺 1年
32	堀井 志勇太 2年
46	大石 煌征 1年
47	見原 悠斗 1年
53	田代 旭 2年
61	林 幹馬 2年
62	石垣 好誠 2年
99	滝口 陽喜 1年

静岡葵ボーイズ

代表	芦澤 厚史
監督	高柳 清彦
コーチ	池谷 謙太
マネージャー	石垣 大輔
18	主将 百々 康洋 2年
0	向後 愉輝也 2年
2	青島 海都 1年
4	望月 金太 2年
5	曲田 優大 1年
6	石垣 大輝 2年
9	本多 陽翔 1年
10	細川 登生 2年
14	岩田 葵 2年
15	石上 久登 2年
16	岩成 航希 1年
17	吉村 駿穂 1年
19	青山 快翔 1年
22	山本 繁幸 2年
25	深澤 力吉 1年
36	福島 悠月 2年
66	西村 文稀 2年

御殿場ボーイズ

代表	芹沢 輝充
監督	山崎 元則
コーチ	高橋 耕輔
マネージャー	勝俣 智史
2	主将 塚本 栄輝 2年
1	高橋 壮輔 2年
3	杉山 大輝 2年
4	岩田 駿佑 2年
5	太田 嵐 1年
6	長戸 涼雅 2年
7	牧野 兼心 1年
8	小林 泰之 2年
9	芹沢 拓真 2年
10	勝俣 壘登 2年
11	勝又 喜陽 2年
12	土屋 拓己 1年
13	渡邊 琥太郎 1年
14	星野 圭信 1年
15	臼井 康平 1年
16	宮下 勇人 1年
17	大木 裕翔 1年
18	勝亦 琉聖 1年
19	大嶋 日翔 1年
20	渡邊 樹 1年
21	勝又 幹 1年
22	徳村 優護 1年
23	藤田 陽翔 1年

駿東ボーイズ

代表	鈴木 貴司
監督	成田 功治
コーチ	岡林 剛史
マネージャー	中川 清猛
25	主将 鈴木 尋斗 2年
4	武田 柊 2年
5	鈴木 琉樹空 2年
6	宮崎 煌也 1年
9	山本 敢生 2年
12	林 風雅 1年
13	渡邊 琉響 2年
16	岩崎 叶空 1年
17	池田 隆之助 1年
18	鈴木 陸翔温 1年
51	新井 盛太郎 2年
99	岩瀬 隼人 2年

静岡府中ボーイズ

代表	熊切 大介
監督	望月 淳
コーチ	松永 康裕
マネージャー	大畑 真也
6	主将 鈴木 幸祐 2年
1	大石 隆太 2年
2	寺田 郁斗 2年
3	伊藤 翼 2年
4	鳥羽 咲跳 2年
5	市野 晃大 1年
7	白鳥 康介 2年
8	鈴木 海翔 2年
9	青木 大和 2年
10	笠原 颯 2年
11	宇田 柊斗 1年
12	濁澤 太士 1年
13	山下 幹太 1年
14	長倉 球児 1年
15	増田 大雅 1年
16	星野 晴紀 2年
17	杉山 幸太郎 1年
18	長坂 優輝 2年
19	高田 琉 1年
20	井口 晋之介 1年
21	大石 優太 1年
22	永嶋 雄輔 1年
23	多々良 捷平 1年

スルガボーイズ

代表	翔山 浩志
監督	荒川 克人
コーチ	新井 貴光
マネージャー	鈴木 直也
18	主将 福原 悠吾 2年
0	水口 大梧 2年
1	栗田 陸 1年
4	伊藤 佑一郎 1年
5	斉藤 真翔 1年
6	山梨 凌右 1年
8	井深 遼佑 1年
10	池谷 挑夢 1年
17	古見 陽輝 1年
19	中谷 太智 1年
22	横澤 空河 2年
24	遠藤 悠陽 1年
27	渡辺 太誠 2年
39	大多和 幸星 2年
51	望月 佑哉 2年
77	野宮 幹太 1年

菊川ボーイズ

代表	池田 竜司
監督	60 鈴木 修平
コーチ	50 後藤 英希
マネージャー	今淵 真理
34	主将 増田 慈与 2年
11	矢部 侑 1年
19	鈴木 颯真 1年
20	山野 仁綺 2年
22	松兼 湊汰 2年
27	大岩 翔斗 1年
30	関 晃誠 2年
32	藤沼 享哉 2年
36	古川 春飛 2年
38	今淵 尚之 2年
39	木内 陵太 2年
41	太田 悠惺 2年
45	山本 暁斗 2年
46	黒田 麗桜 2年
49	長塚 杏汰 2年
52	鈴木 天真 2年
54	中川 翔太 2年
56	下嶋 俊輝 2年
61	飯沼 凌 2年
65	赤堀 太一 2年
66	鈴木 煌大 2年
67	渡辺 夏叶 2年
77	木下 翔登 2年
78	堀内 綜馬 2年
89	植原 正喜 2年

浜松北ボーイズ

代表	富樫 憲之
監督	内山 秀利
コーチ	鈴木 理男
マネージャー	山道 伸之
15	主将 今泉 琥右蔵 2年
2	高塚 克己瑠 1年
5	鈴木 誠吾 1年
6	村松 孝隼 1年
8	松下 歩叶 1年
9	中村 心稀 1年
11	市井 樹弥 1年
12	濱谷 蓮 2年
13	袴田 悠聖 1年
14	山田 彬翔 2年
16	松田 大和 1年
18	森本 健太 1年
19	鈴木 康峰 2年
21	堀内 哉真士 1年
22	野崎 悠斗 2年
23	山口 恵叶 1年
25	青嵐 悠稀 1年
26	鈴木 悠陽 1年
28	鈴木 峰正 1年
29	絹村 聡太郎 1年
31	菅原 夏希 1年
34	谷口 篤郎 1年
44	坂田 聖良 2年
55	岡田 尚 2年
81	内藤 優央 2年

浜松修学舎ボーイズ

代表	大木 実
監督	宮澤 明聡
コーチ	倉島 裕貴
マネージャー	
22	主将 榛葉 岳 2年
2	松野 庸平 2年
3	伊藤 航 1年
6	渥美 心稀 2年
9	藤森 幹太 1年
10	水野 颯大 1年
11	大村 将元 2年
12	鈴木 喜弥 1年
13	寛 琢磨 1年
14	鈴木 来都 2年
18	佐藤 塁唯 2年

富士ボーイズ

代表	瀧澤 佳孝	
監督	藤田 勝昭	
コーチ	大橋 一也	
マネージャー	瀧澤 将美	
3	主将 高井 琉希	2年
2	桐部 壱丸	2年
4	井出 優哉	2年
6	伊藤 大輝	2年
8	和田 貴亘	2年
16	蜂谷 拓真	2年
21	杉本 連	1年
22	佐橋 颯太	1年
25	深瀬 一霸	1年
33	吉田 創哉	1年
51	芦澤 憲一	1年

浜松ボーイズ

代表	山本 浩士	
監督	60 中村 永司	
コーチ	50 鈴木 広達	
マネージャー	畑中 紳吾	
8	主将 梅谷 好真	2年
0	宮澤 忠也	2年
1	千葉 胡太郎	2年
2	町田 稔樹	2年
3	細川 剣芯	2年
4	伴 佳和	2年
5	近藤 真旺	2年
6	池谷 悠弦	2年
7	玉城 豪琉	2年
9	鈴木 龍心	2年
10	田川 竜之介	2年
11	兼平 一朗	2年
12	宗重 宙希	2年
13	畑尾 太陽	2年
14	浅井 琉晟	2年
15	山田 勝斗	2年
16	木村 真翔	2年
17	岩品 早風	2年
18	齊藤 凱哉	2年
19	粟嶋 悠人	2年
20	久米 徠翔	1年
21	仲秋 旬輝	1年
22	梅谷 陸翔	1年
23	齊藤 叶夢	1年
24	古田 旬之介	1年